

成長戦略 骨子（案）

平成29年5月12日
日本経済再生総合事務局

（基本的な考え方）

- ・ 第4次産業革命におけるイノベーション（IoT、ビッグデータ、人工知能、ロボット等）の活用により、Society5.0（イノベーションを活用した超スマート社会）の実現を目指す。
- ・ このため、
 - ①我が国の強み（（i）モノづくり、（ii）社会課題の先進性・大きさ、（iii）リアルデータの取得・活用可能性）を活かせるか、
 - ②国内外で成長が見込まれるか、
 - ③課題先進国のモデルケースとして世界にアピールできるか、との観点から選定した「戦略分野」に投資を集中させる。
- ・ また、域内外のヒト・モノ・カネ・データの活発な循環を活かして地域経済の好循環を引き出すことにより、ローカルアベノミクスを強力に推進していく。
- ・ 「官民戦略プロジェクト10」を着実に実行していく。

（具体的施策例）

I. Society5.0として目指すべき戦略分野

1. 健康寿命の延伸

- ーデータ・AI・ICTを活用した医療、自立支援、介護ロボット
- ー保険者による個人の予防・健康づくりの取組促進、企業の健康経営との連携

2. 移動革命の実現

- ートラックの隊列走行、地域における無人自動走行

3. サプライチェーンの次世代化

- ースマート工場、協調領域でのデータプラットフォーム化

4. 快適なインフラ・まちづくり

5. FinTech

等

II. Society5.0の横割課題

A. 価値の源泉の創出

1. データ利活用基盤の構築・制度整備

- ー公共データのオープン化、事業者間のデータ流通、パーソナルデータの利活用
- ー第4次産業革命（Society5.0）に対応した知財・標準化戦略

2. 教育・人材力の抜本強化

- ーIT人材力の強化（個人に着目した支援、実践的教育の強化、プログラミング教育の必修化対応）
- ー高度外国人材の更なる呼び込み

3. イノベーション・ベンチャーを生み出す好循環システム

- ー大学改革、産学官連携の抜本的強化

B. 価値の最大化を後押しする仕組み

1. 「日本版レギュラトリー・サンドボックス」

- ー参加者や期間を限定することにより、「まずはやってみる」試行錯誤を許容する制度の導入

2. 規制改革・行政手続簡素化・IT化の一体的推進

3. 「稼ぐ力」の強化（コーポレートガバナンス改革を形式から実質へ）

4. 公的資産・サービスの民間開放

5. 国家戦略特区の加速的推進

6. サイバーセキュリティ

7. シェアリングエコノミー

Ⅲ. ローカルアベノミクス ー地域経済好循環システムの構築ー

1. **中堅・中小企業・小規模事業者の革新/サービス産業の活性化・生産性向上**
 - ーIoT・ロボット等の導入促進、成長資金の供給、円滑な事業再生・事業承継
 - ー地域中核・成長企業の投資拡大・生産性向上

2. **攻めの農林水産業の展開**
 - ー「農業競争力強化プログラム」や「農林水産業の輸出力強化戦略」の実行
 - ーデータ等を活用したスマート農林水産業の推進

3. **観光・スポーツ・文化**
 - ー観光資源の魅力向上
 - ースタジアム・アリーナ改革の推進

Ⅳ. 海外の成長市場の取り込み

- ーインフラシステム輸出、経済連携交渉、中堅中小企業の海外展開支援、クールジャパン